関空島
WEATHER TOPICS
11月号
平成27年
(2015年)

ご利用の前に
関空島 WEATHER TOPICS（かんくうじまウェザートピックス）の内容には、航空気象で利用する用語や、観測で使用する機器及びその設置場所等の略語がでてきます。これらの解説を巻末に掲載していますので適宜ご利用ください。

関空島の10月の気象

天気概況

10月は、期間を通して大陸からの移動性高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。低気圧や前線、上空の気圧の谷の影響で雨になる日も数日ありましたが、月降水量が27.5mmと10月としては「月降水量の少ない方から」の観測史上1位の値となりました。

また、25日は一時的に冬型の気圧配置となり、北よりの風が強まったため近畿地方で「木枯らし1号」が吹きました。

上旬：　期間の初めは、発達した低気圧の影響で雷雨となる日がありましたが、それ以外の日は高気圧の影響で概ね晴れました。

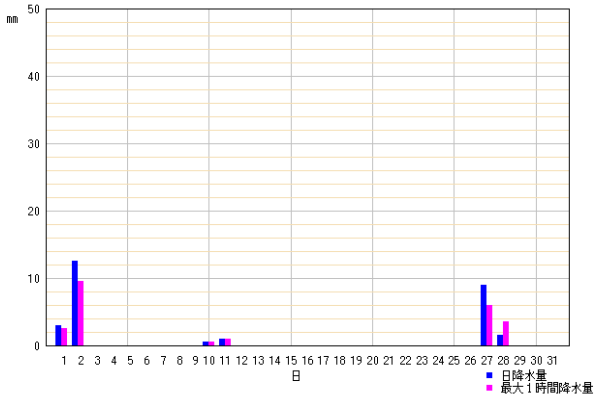
1日は、発達した低気圧が日本海上を北東に進み、暖かく湿った空気が流入したため雨が降り、雨やもやの影響でVISが4,500mまで、RVRが1,200mまで低下しました。また、寒冷前線の接近に伴って南の風が強まり日最大風速 南南西43ktの非常に強い風が吹きました。

2日は、1日に引き続き日本海上の低気圧向かって暖かく湿った空気が流入し、対流雲が発達したため雷雨となり、雨やもやの影響でVISが1,000mまで、RVRが400mまで低下しました。また、寒冷前線の接近に伴って南の風が強まり南南西50ktの非常に強い風が吹きました。

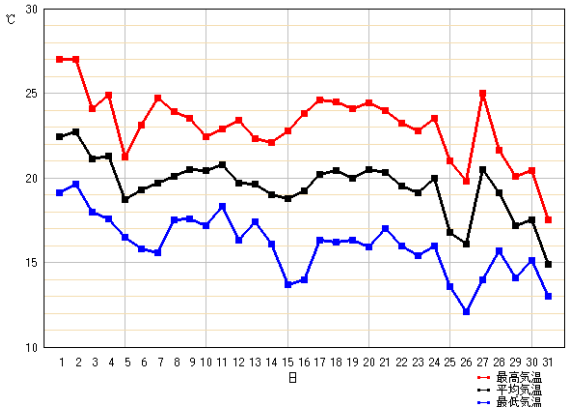
中旬：　期間を通して大陸からの移動性高気圧に覆われることが多く概ね晴れましたが、期間の初めは前線の影響で雨が降る日もありました。

下旬：　期間を通して大陸からの移動性高気圧に覆われて晴れる日が多くありましたが、期間の中頃以降は寒冷前線の通過に伴い雨になる日も数日ありました。

27日には、沿海州付近を北東に進む低気圧から延びる寒冷前線の通過に伴い雨となり、雨やもやの影響でVISが2,000mまで低下しました。



第 1 図　2015 年 10 月の日別降水量

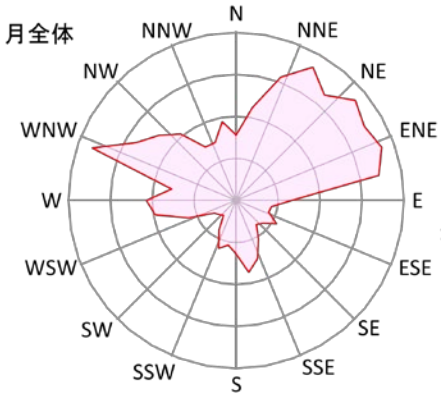


第 2 図　2015 年 10 月の日別気温

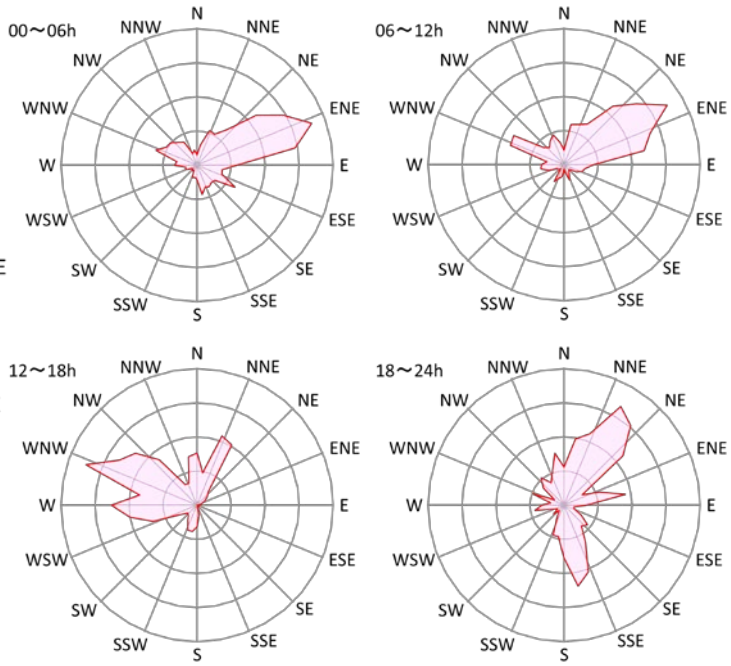
《降水量》月降水量は 27.5mm（平年 127.3mm）でした。日降水量の最大、1 時間降水量の最大及び 10 分間降水量の最大はそれぞれ 12.5mm、9.5mm、8.5mm であり、いずれも 2 日に観測しました（第 1 図）。

《気温》月平均気温は 19.5℃（平年 20.0℃）で、日最高気温の月平均は 23.1℃（平年 23.0℃）で、最高は 2 日の 27.0℃、日最低気温の月平均は 16.0℃（平年 17.2℃）で、最低は 26 日の 12.1℃でした（第 2 図）。

《風向風速》　月全体の風向は、北北東と西北西の風が多くなっています。時間帯別に見ると、00～06 時は東北東の風、06～12 時は北東から東北東の風、12～18 時は西から北西の風、18～24 時は北北東から北東と、南南東から南西の風が多くなっています（第 3、4 図）。

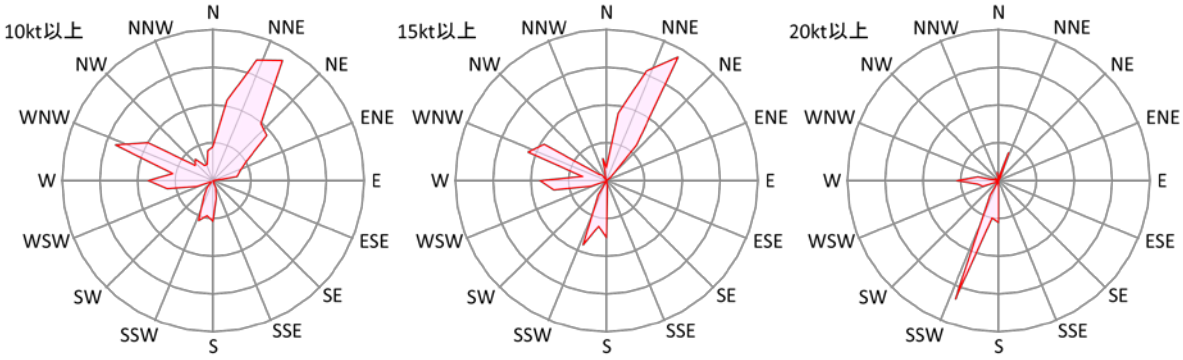


第 3 図　10 月の風配図
calm：0.0%



第 4 図　10 月の 6 時間毎の時間別風配図
calm　00-06：0.0%　06-12：0.0%
12-18：0.2%　18-24：0.0%

風速別では、日最大風速が 10kt 以上の日数が 31 日、そのうち 15kt 以上の日数が 19 日、20kt 以上の日数が 8 日ありました。10 分間平均風の風配図を見ると、10kt 以上で北北東と西北西の風、15kt 以上で北北東の風、20kt 以上で南南西の風が多くなっています（第 5 図）。



第 5 図　10 月の風速別風配図

《極値の更新》　10 月の極値の更新状況を第 1 表に示します。表において、紫色のセルが通年での極値を更新した記録、橙色のセルが今月の極値を更新した記録です。月降水量の少ないほうからと日最大風速、日最大瞬間風速はそれぞれ 10 月で 1 位となり、またこのうち日最大瞬間風速は通年で 3 位となりました。

第 1 表　関空島の 10 月の極値

要素名／順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
日最大10分間降水量(mm)	15.5 (2014/10/13)	14 (2012/10/17)	10.5 (2014/10/27)	10 (2013/10/9)	8.5 (2015/10/2)	8.5 (2009/10/14)	8 (2014/10/26)	7.5 (2012/10/23)	5.5 (2014/10/9)	4.5 (2011/10/15)
月降水量の少ない方から(mm)	27.5 (2015/10)	43 (2006/10)	57.5 (2008/10)	92 (2007/10)	105 (2003/10)	126 (2012/10)	127 (2010/10)	140.5 (2009/10)	148 (2011/10)	187 (2005/10)
日最高気温の低い方から(℃)	14.7 (2004/10/27)	15.3 (2010/10/27)	15.9 (2010/10/28)	16.9 (2003/10/24)	17.5 (2015/10/31)	17.9 (2012/10/31)	17.9 (2007/10/21)	18.1 (2014/10/29)	18.1 (2012/10/24)	18.1 (2005/10/31)
日最低気温の低い方から(℃)	10.4 (2010/10/27)	10.7 (2004/10/28)	10.9 (2003/10/25)	11.4 (2014/10/29)	11.4 (2010/10/26)	12.1 (2015/10/26)	12.1 (2004/10/27)	12.2 (2012/10/25)	12.2 (2003/10/24)	12.3 (2007/10/22)
月平均気温の高い方から(℃)	20.8 (2013/10)	20.7 (2006/10)	20.5 (2007/10)	20.4 (2010/10)	20.3 (2005/10)	20 (2014/10)	20 (2011/10)	20 (2008/10)	19.8 (2009/10)	19.5 (2015/10)
月平均気温の低い方から(℃)	18.7 (2003/10)	19.4 (2012/10)	19.5 (2015/10)	19.5 (2004/10)	19.8 (2009/10)	20 (2014/10)	20 (2011/10)	20 (2008/10)	20.3 (2005/10)	20.4 (2010/10)
日最大風速・風向(m/s)	22.0 南南西 (2015/10/1)	21.7 南西 (2015/10/2)	21.3 北北東 (2009/10/8)	20 北東 (2004/10/20)	19.2 北東 (2014/10/6)	18.9 南南西 (2011/10/15)	17.7 北東 (2009/10/7)	16.8 南南西 (2011/10/14)	16.4 北北東 (2014/10/13)	16.1 南 (2012/10/23)
日最大瞬間風速・風向(m/s)	29.8 南西 (2015/10/2)	28.3 南南西 (2015/10/1)	27.8 北北東 (2009/10/8)	24.7 北北東 (2014/10/6)	24.2 南南西 (2011/10/15)	23.7 北東 (2009/10/7)	22.1 南 (2011/10/14)	21.6 西 (2009/10/14)	20.6 南南西 (2013/10/9)	20.6 西 (2012/10/23)

統計期間：2003 年 1 月から。ただし、日最大 10 分間降水量及び日最大瞬間風速は 2009 年 1 月から。

（関西航空地方気象台　観測課）

航空気象解説報等で用いる用語の解説

１　はじめに

気象庁では、天気予報などが誰にでも正確に伝わるよう、報道機関などのご意見を伺いながら、天気予報などに使う予報用語を定めています。関西航空地方気象台で発表する各種情報もこの用語を用いています。

例えば、2130UTC と 0930UTC の 1 日 2 回発表している地域航空気象解説報は、気象概況や予報上の留意点等を記述した「解説文」と地域内の飛行場の悪天予測を表形式でまとめた「カテゴリー予想」で近畿・中国・四国地域の各空港における航空機の運航に影響する気象について解説しています。この「解説文」では、この予報用語の利用を基本として、分かりやすくかつ正確に内容が伝わるように留意して記述し発表しています。

２　地域航空気象解説報でよく用いる予報用語

関空島 WEATHER TOPICS 速報 10 月 2 日号でお知らせしましたが、2015 年 10 月 2 日未明、関西国際空港では一時的に非常に強い風を観測しました。この時、2015 年 10 月 1 日朝に発表した地域航空気象解説報の「解説文」部分を第 6 図に示します。この「解説文」では、「航空気象概況と今後の見通し」と「予報上の留意点」を記述しています。これを参照しながら、以下に、予報用語に関する簡単な説明をします。

地域航空気象解説報（近畿・中国・四国地域）

2015年 9月 30日 2130UTC　　関西航空地方気象台

1　航空気象概況と今後の見通し

①当地域は、黄海の低気圧の影響で中・下層雲が広がり、四国や中国地方西部でレーダーエコーを観測しているが、各空港はVMCとなっている模様。風は陸風の所が多い。

②低気圧は、発達しながら日本海を北東進する。この低気圧からのびる前線や暖湿気の影響で広い範囲で雨となる見込み。今日昼過ぎにかけてと、夜のはじめ頃から明日朝にかけて雨やBR、低い雲によりVIS・CIGが低下しIMCとなる見込み。また、今日夜遅くから明日明け方にかけて太平洋側では大気の状態が不安定となるため、対流雲の発達や発雷のおそれがある。

③風は、今日朝から沿岸部の空港を中心に南風が次第に強まり、ガストやLLWSが発生する所がある見込み。前線が通過する夜のはじめ頃から明日朝にかけて西風が強まり、広い範囲でガストやLLWSが発生する見込み。また、今日昼過ぎから明日未明にかけて沿岸部の空港では、警報級の強風となる可能性がある。

2　予報上の留意点

①今日昼過ぎにかけてと夜のはじめ頃から明日朝にかけて広い範囲でVIS・CIGのIMCに留意。

②今日夜遅くから明日明け方にかけて、太平洋側では対流雲の発達・発雷に留意。

③明日朝にかけて広い範囲でガストやLLWSに留意。

④今日昼過ぎから明日未明にかけて、沿岸部の空港では警報級の強風に留意。

第 6 図　解説報の「解説文」(2015 年 9 月 30 日 21 時 30 分(UTC)発表)

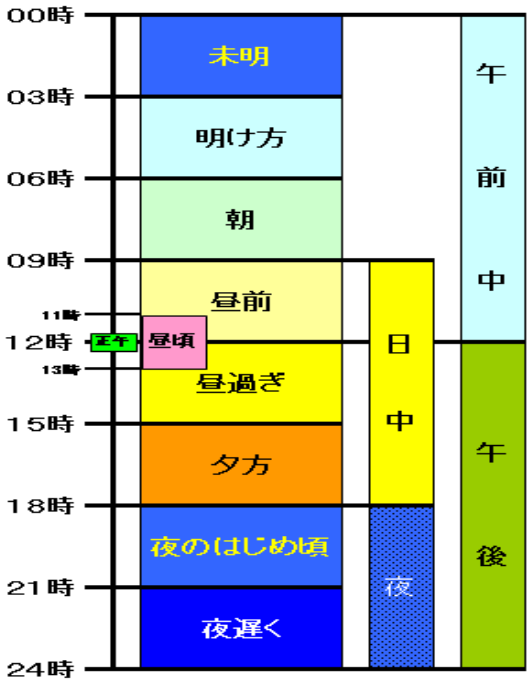
【UTC】(coordinated universal time) 協定世界時

ご存知の通り、航空気象（予報・観測）では、協定世界時（UTC）を使用します。日本標準時（JST：Japan Standard Time）は、協定世界時より 9 時間進んでいます。例えば、第 6 図の発表時刻は 9 月 30 日 2130UTC となっていますが、日本時間では 10 月 1 日 06 時 30 分となります。

【一日の時間細分の用語】

航空気象予報では通常、時間帯を表記する際、協定世界時（UTC）を使います。解説文でも UTC 表記を基本としていますが、この UTC で記述すると冗長となる場合には、気象庁で予報用語として定めている 1 日の時間細分の用語（第 7 図）を使用して簡潔に表記することとしています。

地域や季節によって違う「明け方」や「夕方」等の表現は、混乱を避けるために全国一律として定義しています。例えば、第 6 図の「解説文」で使用している「昼前から夜のはじめ頃にかけて」は、日本時間で 9 時から 21 時までの時間帯、「昼過ぎ」は、日本時間で 12 時から 15 時までの時間帯を表しています。



第 7 図　1 日の時間細分図

【低気圧】

高さ（気圧）の同じ面で、周囲よりも気圧（高度）が低く、閉じた等圧線（等高度線）で囲まれたところで、地上天気図では「低」または「L」と表示します。発生域や立体構造から温帯低気圧と熱帯低気圧に分けられますが、単に「低気圧」という場合は温帯低気圧のことを示します。

【レーダーエコー】

気象レーダーで受信した反射波のことで、特に降水現象による反射波を降水エコーといいます。

【前線】

寒気団（寒冷な気塊）と暖気団（温暖な気塊）との境界線のことで、この周辺では、風向、風速の変化や降水を伴っていることが多く、その動きと構造によって温暖、寒冷、閉塞、停滞の 4 種類に分けられます。

【海陸風】

海陸の温度差により日中は海から陸に（海風）、夜間は陸から海に（陸風）向かって吹く風をいいます。気圧の傾きが小さいときにより明瞭となります。

【VMC】(Visual Meteorological Conditions) 有視界気象状態

有視界飛行ができる気象状態で、航空法令によって定められています。

【IMC】(Instrument Meteorological Conditions) 計器気象状態

有視界気象状態(VMC)以外の気象条件をいいます。

【沿岸（部）】

海岸線の両側のある広さを持った地域と水域をいいます。

【BR】
“もや（仏語の Brume、英語では Mist）”のことで、ごく小さい水滴または湿った吸湿性の粒子が、大気中に浮遊している現象で、航空気象観測では最短視程が 1km 以上 5km 以下の場合をいいます。

【VIS】（Visibility）
卓越視程のことで、地平円の半分(180 度)または又はそれ以上の範囲に共通した最も長い距離の水平視程をいいます。

【CIG】（Ceiling）
雲量が 5/8 以上の最低雲層の雲底の高さ又は鉛直視程をシーリングといいます。

【ウィンドシアー】
風向、風速（どちらか一方でも良い）が急に変化しているところをいいます。

【LLWS】(Low Level Wind Shear) 低層ウィンドシアー
1,600ft 以下の低層で発生するウィンドシアー。航空機の離着陸に影響する場合があります。

【ガスト】（Gust）
瞬間風速の急激な変化が起こることをいいます。

３　解説報でよく使うその他の用語

この他にも、地域航空解説報でよく用いる用語には、次のものがあります。

【高気圧】【移動性高気圧】【帯状高気圧】
高さ（気圧）の同じ面で、周囲よりも気圧（高度）が高く、閉じた等圧線（等高度線）で囲まれたところ。地上天気図では「高」または「H」と表示します。
温帯低気圧と交互に東に移動していく高気圧を「移動性高気圧」と呼びます。また、東西方向に長く帯状に広がっている高気圧を「帯状高気圧」と呼びます。これらは日本では春や秋に現れることが多く、この高気圧に覆われると空気が乾燥して晴天となります。

【冬型の気圧配置】
大陸に高気圧、日本の東海上から千島方面に発達した低気圧がある気圧配置（西高東低の気圧配置）をいいます。時間的、空間的に小さな西高東低の気圧配置は「冬型の気圧配置」とはいいません。

【一般風】
地形などの局地的な影響を受けない、広い地域を代表する風をいいます。冬型の気圧配置の場合は主に西～北よりの風となります。

【FG】
“霧（Fog）”のことで、ごく小さな水滴が大気中に浮遊する現象。水平視程 1,000m 未満の場合に用います。

【気圧の傾き】

単位長さあたりの気圧の差で、天気図上では等圧線の混み具合のことをいいます。気圧の傾きが大きいところほど、天気図上では等圧線が混み、一般的に風が強まります。

【風の強さ、雨の強さ】

風の強さや雨の強さは、第 2 表、第 3 表を用いています。

第 2 表　風の強さ

	平均風速（kt）	平均風速（m/s）
やや強い風	20 以上 30 未満	10 以上 15 未満
強い風	30 以上 40 未満	15 以上 20 未満
非常に強い風	40 以上 60 未満	20 以上 30 未満
猛烈な風	60 以上	30 以上

第 3 表　雨の強さ

	1 時間雨量（mm）
やや強い雨	10 以上 20 未満
強い雨	20 以上 30 未満
激しい雨	30 以上 50 未満
非常に激しい雨	50 以上 80 未満
猛烈な風	80 以上

4　おわりに

今回は、地域航空気象解説報でよく用いる用語を中心に解説しました。気象庁が天気予報等で用いる予報用語は、その他にもいろいろあります。

気象庁ホームページ(http://www.jma.go.jp/jma/index.html)の「知識・解説」では、これらの用語を「天気予報で用いる用語（予報用語）」等で確認いただけます。

（関西航空地方気象台　予報課）

―― 事務局からのお知らせ ――

＜関空島ウェザートピックスについて＞

「関空島ウェザートピックス」についてのご意見・ご要望は、担当（片桐）のメールアドレス **k_katagiri@met.kishou.go.jp** まで、メールにてお願いします。

＜関空島内各機関・事業所へのお知らせ＞

MetAir 及び自動巡回ソフトのご利用を希望される場合は、メールアドレス **k_katagiri@met.kishou.go.jp**（片桐）までご連絡ください。担当より折り返し連絡させていただきます。

発行日：平成 27 年 11 月 13 日
発行元：関西航空地方気象台
編　集：航空気象懇談会事務局

航空気象観測月表

官署名 関西航空地方気象台　地点略号 RJBB　　2015 年 10 月

日/要素	平均気圧		気温			相対湿度		最大風速		最大瞬間風速		降水量			降雪の深さの合計	積雪の深さ	大気現象
	飛行場現地 x0.1hPa	海面 x0.1hPa	平均 x0.1℃	最高 x0.1℃	最低 x0.1℃	平均 %	最小 %	風向 36方位	風速 kt	風向 36方位	風速 kt	合計 x0.1mm	最大1時間 x0.1mm	最大10分間 x0.1mm	cm	09h cm	
01	10094	10103	224	270	191	73	52	200	43	200	55	30	25	15	−	−	SHRA RA
02	10090	10100	227	270	196	69	45	210	50	210	58	125	95	85	−	−	SHRA TS
03	10173	10183	211	241	180	65	44	280	12	270	17	−	−	−	−	−	
04	10209	10219	213	249	176	62	46	20	20	30	24	−	−	−	−	−	
05	10210	10220	187	212	165	60	41	20	17	20	22	−	−	−	−	−	
06	10174	10183	193	231	158	63	46	40	17	40	22	−	−	−	−	−	
07	10138	10148	197	247	156	58	31	350	20	10	26	−	−	−	−	−	
08	10087	10096	201	239	175	55	41	20	19	10	24	−	−	−	−	−	
09	10098	10107	205	235	176	65	48	220	12	210	15	−	−	−	−	−	
10	10114	10123	204	224	172	73	60	190	10	190	17	5	5	5	−	−	SHRA
11	10111	10120	208	229	183	67	41	270	20	270	26	10	10	10	−	−	SHRA RA
12	10148	10158	197	234	163	56	41	260	19	250	24	0	0	0	−	−	SHRA
13	10164	10174	196	223	174	52	39	300	20	300	26	0	0	0	−	−	SHRA
14	10188	10197	190	221	161	59	44	30	13	40	17	−	−	−	−	−	
15	10193	10202	188	228	137	59	30	30	11	30	16	−	−	−	−	−	
16	10170	10180	192	238	140	61	35	30	16	40	20	−	−	−	−	−	
17	10169	10179	202	246	163	65	46	40	13	40	15	−	−	−	−	−	
18	10167	10177	204	245	162	68	49	40	18	40	24	−	−	−	−	−	
19	10155	10165	200	241	163	66	41	60	12	60	16	−	−	−	−	−	
20	10147	10156	205	244	159	68	47	30	18	40	22	−	−	−	−	−	
21	10165	10175	203	240	170	67	47	50	11	10	16	−	−	−	−	−	
22	10185	10195	195	232	160	67	51	30	16	30	21	−	−	−	−	−	
23	10184	10194	191	228	154	66	35	50	12	10	17	−	−	−	−	−	
24	10149	10159	200	235	160	72	53	50	10	360	14	0	0	0	−	−	SHRA
25	10204	10214	168	210	136	45	26	20	23	10	33	0	0	0	−	−	SHRA
26	10213	10223	161	198	121	54	33	30	15	40	22	−	−	−	−	−	
27	10130	10140	205	250	140	69	47	190	24	190	32	90	60	35	−	−	SHRA
28	10132	10142	191	216	157	58	40	290	19	290	26	15	35	25	−	−	SHRA
29	10197	10207	172	201	141	47	37	320	12	360	18	−	−	−	−	−	
30	10210	10220	175	204	151	57	40	30	14	30	19	−	−	−	−	−	
31	10243	10253	149	175	130	50	32	30	18	40	23	−	−	−	−	−	
上旬	10139	10148	206	242	175	64						160			−		
中旬	10161	10171	198	235	161	62						10			−		
下旬	10183	10193	183	217	147	59						105			−		
月	10162	10171	195	231	160	62						275			−		
極値				270	121		26	210	50	210	58	125	95	85		−	
起日				2	26		25		2		2	2	2	2		−	

気温 日数 ℃							最大風速階級別日数 kt				日降水量階級別日数 mm								降雪の深さの日合計階級別日数 cm					
日最低 < 0.0	日平均 < 0.0	日最高 < 0.0	日最低 >= 25.0	日平均 >= 25.0	日最高 >= 25.0	日最高 >= 30.0	>= 20	>= 30	>= 40	>= 50	>= 0.0	>= 1.0	>= 5.0	>= 10.0	>= 30.0	>= 50.0	>= 70.0	>= 100.0	>= 0	>= 5	>= 10	>= 20	>= 50	>= 100
0	0	0	0	0	3	0	8	2	2	1	10	5	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

日最深積雪階級別日数 cm							視程継続時間 分			RVR継続時間 分						最低雲高継続時間 分						大気現象出現日数		
>= 0	>= 5	>= 10	>= 20	>= 50	>= 100	>= 200	m < 5000	m < 3200	m < 1600	m < 1600	m < 800	m < 600	m < 400	m < 200	m < 100	ft < 1500	ft < 1000	ft < 500	ft < 300	ft < 200	ft < 100	雷	霧	雪
0	0	0	0	0	0	0	92	42	7	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0

特記事項	

関空島 WEATHER TOPICS で使用する航空気象に関する用語の解説

1　本文中で使用する語句の定義等

VIS：全周を見渡して半分またはそれ以上の範囲で共通した視程（卓越視程）を（m）で表す。
CIG：雲量が 5/8 以上の雲層のうち、一番低い雲層の雲底の高さを（ft）で表す。
RVR：滑走路視距離計で観測した滑走路視距離を（m）で表す。
風：RWY06R に設置した観測装置の値（関西国際空港の代表風）を、風向を真方位（°）で風速を（kt）で表す。
　風配図は、RWY 06R の、正時から 10 分毎の 10 分間平均風を、月毎の風向別に百分率で表す。
　Calm（静穏）は、10 分間平均風速の値が 0.4kt（0.2m/s）以下の場合をいう。
　ガストは、平均風速を 10kt 以上上回る最大瞬間風速があった場合に報じられる。
ウィンドシアー：鉛直方向又は水平方向の風速や風向の差をいう。
平年値：アメダスの関空島地域気象観測所として算出した平年値を使用している。
　関空島の統計期間は、2003-2010 年（但し、日最大 10 分間降水量及び日最大瞬間風は 2009 年から）。

2　気象観測施設の配置とデータ利用について

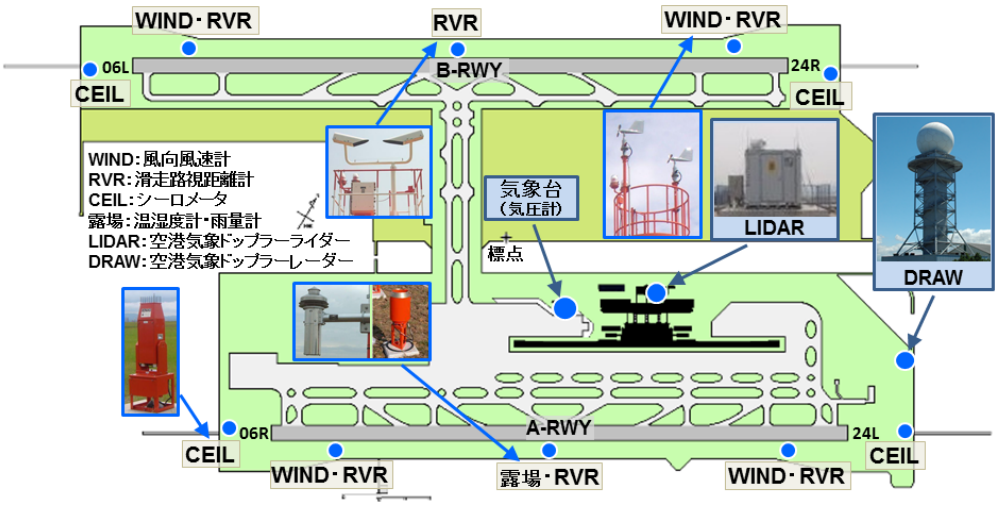
気象観測施設は、関空島の A-RWY（3500m）と B-RWY（4000m）周辺に配置した屋外観測装置（第 1 図）と、当台観測課（航空庁舎ペントハウス）に設置した気象観測報の作成、配信等の処理を行う屋内観測装置で構成する。

屋外観測装置からのデータは屋内観測装置に表示し、METAR-AUTO 報として 10 分毎に自動配信するとともに、屋上で行う目視による観測とあわせて航空観測気象報（METAR 報、SPECI 報）で配信する。

航空観測気象報で通報する風は「06R」の観測値である。障害等で「06R」が使用できない時は「06L、24L、24R」の順に代用して通報し、RMK に使用した風向風速計名を記載する。（例：WIND BY EQPT/06L）

3　航空気象観測月表の解説資料

平均気圧：毎正時の観測値の平均を、ヘクトパスカル（hPa）の 1/10 位まで、小数点を省いて記載。
　飛行場現地気圧（QFE）は、飛行場の標点から 3m の高さに合わせた気圧値。
　海面気圧（QFF）は、平均海面上の気圧値。
気温：摂氏（℃）の 1/10 位まで、小数点を省いて記載（0℃未満の場合は、「－」を前置）。
　日平均気温は、毎正時の観測値の平均を記載。
相対湿度：パーセント（%）で記載。
　日平均相対湿度は、毎正時の観測値の平均を記載。
最大風速及び最大瞬間風速：風速はノット（kt）単位、風向は 10 度（°）間隔で発生時の起時の値を記載。
降水量：ミリメートル（mm）の 1/10 位まで 0.5mm 間隔で、小数点を省いて記載。
　日降水量は、毎正時の観測値の合計を記載。
　最大 1 時間及び最大 10 分間は、任意の 1 時間並びに 10 分間の最大値を記載。
降雪の深さ：09 時、15 時及び 21 時の、前回の観測時刻以降に降った雪の深さを、センチメートル（cm）で記載。
　降雪の深さの合計は、09 時、15 時及び 21 時の観測値の合計を記載。
積雪の深さ：9 時の積雪の深さをセンチメートル（cm）で記載。
　積雪の深さが 1cm に満たない場合は 0cm と記載。積雪は、飛行場の半分以上が雪などの固形降水（暖候期のひょうを除く）に覆われている場合を「積雪あり」とする。
大気現象：大気現象を略号により記載（略号の意味は、第 1 表のとおり）。
視程・RVR及び最低雲高継続時間：欄の区分に該当する値未満であった時間の合計を記載。
　継続時間は、METAR・SPECI から該当する値を引用して算出する。



関空島内の気象観測機器配置状況

第 1 表　大気現象と略号

大気現象	略号
雨	RA
しゅう雨	SHRA
着氷性の降水	FZRA
着氷性の霧雨	FZDZ
霧雨	DZ
雪	SN
しゅう雪	SHSN
みぞれ	RASN
しゅう雨性のみぞれ	SHRASN
霧雪	SG
凍雨	PL
雪あられ/氷あられ	SHGS
ひょう	SHGR
霧	FG
煙	FU
黄砂	SA
雷電	TS

2015.11　関空島 Weather Topics 編集部